

おどろ

永平寺町議会
だより

併20周年

20周年記念式典に参観した
「わい押れも」
今後の行動に注目!!

第80号

INDEX

令和7年11月7日発行

特集 RMO、DMOって何ぞや? P2~5

そこが聞きたい!

議員12人が一般質問 P11~15



永平寺町議会
facebook

永平寺町議会

検索

議会だよりは
こちらからも
ご覧いただけます



RMOの、視察報告と 永平寺町はこう動く！

【RMO視察報告】

●訪問場所：岐阜県山県市 体験農園「みとか」

農業の魅力を活用して地域活性化を目標とする会社で、地域の環境系コンサルタントを中心とした数社が出資して運営をしています。耕作放棄地だった場所に体験農園のハウスを建て、果物中心に5種を取り扱い通年対応を可能に。また、収穫物を利用した加工品の販売やレストランの運営も行い、開業後およそ5年で利益を出しているようです。

地域との関わり

- ・山県市との連携として市全体の情報発信を担う
- ・従業員の雇用
- ・地元住民への農場の開放およびインターンシップの対応などの農業の後継者対策

今後の課題

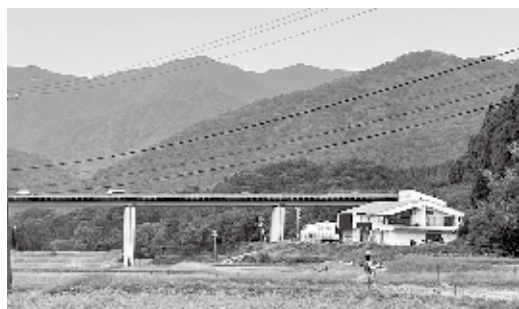
- ・山県市内の他観光施設への客の回遊



コメント

熱心に説明していた社長の姿を見て、人材育成・確保の重要性和地元事情に精通したコンサルとの付き合いの必要性を実感した視察となりました。

こんにちは、農林課です！ 農村RMOとは「農用地保全」「地域資源活用」を核に「生活支援」など地域コミュニティに資する取り組みのこと。
酒米の需要が増加している上志比地区にて、酒蔵と生産者と地元が連携し、農村RMOの手法を用いて、農業を核とした地域づくりの話し合いを実施しています。



農村RMO推進地域 吉峰地区の風景
稲のはさがけ※▶



※刈り取った稲を天日で自然乾燥させるための伝統的な農法

永平寺町 農林課の皆さん

RMO、DMOって何ぞや？

今回話題とする「RMO」と「DMO」、皆さん耳にしたことはありますか？

なかなか馴染みが薄いかもしれませんが、

町の行う事業にはこのRMOとDMOという用語が登場しています。

この用語の説明とともに、

私たちが行ってきた関連事業の先進地視察の内容を報告します。

RMO

Region Management Organization
地域運営組織

地域の住民が中心となって形成され、地域内の多様な関係者が参加する協議組織が定めた指針に基づき、地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織

つまりは、

地域課題の解決と
持続的な地域運営を目指す組織

DMO

Destination Management/Marketing Organization
観光地域づくり法人

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりの司令塔となる法人

つまりは、

観光資源の持続的な活用と
観光客への魅力発信を行う法人

RMO・DMOの違い

RMO		DMO
地域の暮らしを支え、地域課題を解決し、地域経営の指針に基づいた持続的な取り組みを実践する。	目的	地域の観光資源の戦略的な活用とマーケティングを通じた観光客の誘致、観光地域づくり。
地域内で様々な関係者が参加する協議組織を形成し、地域課題の解決に向けた具体的な活動を持続的に実践する。	役割	地域にある観光資源を把握し、地域と協働して魅力的な観光商品やサービスを開発・提供し、観光客に発信する。
地域に暮らす人々が中心となって形成する協議組織。	主体	自治体や観光協会、民間企業などが中心となって形成される。
「地域住民の暮らし」全般に焦点を当て、地域課題の解決と持続可能な地域運営を目指します。	焦点	「観光」に焦点を当て、地域経済への波及効果の最大化を目指す。
地域内の多様な主体が協力し、課題解決のための「実行部隊」としての機能が強いと言える。	機能	観光客の行動をマーケティングする「司令塔」の役割が強い。

視察案件：不登校特例校の運営について



永平寺町ではこう活かせたい！

当町でも不登校の児童・生徒の増加が見られる。学びの多様化学校や小規模特認校の対応を考慮する必要性も感じた。

学校法人西濃学園は、文科省が指定する“学びの多様化学校”（不登校生徒を対象とした不登校特例校）である。岐阜県揖斐川町の旧揖斐川町立藤橋小学校の校舎を転用し、北浦茂理事長の強い信念から不登校生徒の実態に配慮した“学舎”の開学にいたっている。

特徴

- ・少人数教育、基礎学力の定着に重点を置いた授業
- ・地域活動や農作業などの体験学習
- ・学生寮の併設による集団適応能力の向上
- ・臨床部を併設し社会的自立を目指した教育

視察案件：地域づくり・コミュニティの創設について

「しきしまの家」のある敷島自治区は永平寺町志比南地区と同規模の自治体であり、人口減少・高齢化が進む地域である。解決の糸口として立ち上げた「しきしま・ときめきプラン」プロジェクトの拠点施設として、延べ430人からの支援金を基に「しきしまの家」を整備。地域コミュニティを構成している。

「しきしま・ときめきプラン」の概要

- ・支え合いシステム（有償ボランティアシステム）
- ・自給家族による農用地・里山森林保全
- ・心の拠り所としてのカフェ運営

永平寺町ではこう活かせたい！

「おたがいさま」の地域共生社会を取り戻し、次世代が今より幸せに暮らせる地域を残す。それは地域運営組織による地域経営の新しい形態であり、今後の永平寺町でも取り入れる必要性を確信した。

視察案件：子育て支援と人口増加施策について



永平寺町ではこう活かせたい！

40代の村長は8年前に地域おこし協力隊として移住してきた方である。従来村に住んでいる人を尊重し、かつ移住者だからこその新しい視点で施策を講じているのかもしれない。

南箕輪村は、平成の大合併時に住民投票で単独村として決めた村である。

H16年14,000人→R7年16,000人に移住者の割合83.3%、高齢化率23.9%、生産人口率60.7%と人口増加を特筆する村である。

南箕輪村の特徴

- ・子育て支援施策
- ・障がい者・高齢者支援施策
- ・持続可能な自治会検討
- ・新しい住民（移住・関係人口）の受け入れ、自然と調和した持続可能な新しい自治区づくりの模索

DMOの、視察報告と永平寺町はこう動く！

【DMO視察報告】

●訪問場所：岐阜県郡上市観光連盟

観光客の減少をきっかけとした観光立市を目指して観光DMOの設立を計画されました。事業のコンセプトとしては「通年・滞在・体験型観光の実現」を挙げており、情報発信やプロモーション及び英語ガイドの育成など、受入環境の整備を行っています。

地域との関わり

- ・観光戦略会議の運営を通じて地域の一体感を醸成している

今後の課題

- ・観光地経営戦略の策定、組織の強化および安定財源の確保



コメント

市役所からの出向者である担当者の説明を聞いて、行政主導になりがちな組織運営を地域主導でどう維持していくか？ 法人格を持つメリットを活かして行政に頼らない財源をどう確保するかが課題となりそうです。また、永平寺町への導入を考えると前段階としてデータ活用や地域観光関係者の一体感の醸成を図っていく手法についての課題がありそうです。

魅力ある永平寺町を創造するためにすでに様々な活動に取り組んでおられ、これから観光DMOの受け皿となりうるまちづくり株式会社ZENコネク트의山田社長に視察の結果を受けて、インタビューをしました！

Q1 農村RMO、観光DMOを利用して目指す町の形は？

A 交流人口拡大と地域経済循環を生む観光まちづくりです。

Q2 今年度採用した地域おこし協力隊の業務について教えてください。

A 魅力発信と地域PRを担い、交流人口拡大に貢献する活動をすることです。

Q3 農業、観光で今後取り組みたいことは？

A 観光と体験農業を組み合わせ、永平寺町独自の魅力を発信していきたいと考えています。

Q4 今後の意気込み町民に向けたメッセージをどうぞ！

A 永平寺町の隠れた魅力の洗い出しと未来に繋ぐ取り組みと発信を推進していきます！



まちづくり株式会社ZENコネクートの山田秀幸社長



滝波 登喜男 議員

本町独自の宝物である禅の文化・九頭竜川・自然景観・お米・酒蔵・精進料理・歴史・地形など。これらの素晴らしさを引き出し、町民の愛郷心の向上と交流人口の増加につなげる。



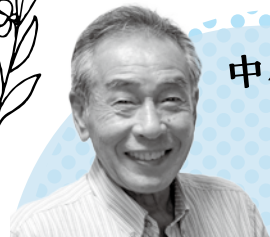
清水 紀人 議員

福井市と吉野地区をつなぐトンネルが完成。吉野地区、北インターや各駅周辺の調整区域が一部緩和して、生活拠点に居住やサービスを集約。民間と力を合わせ活力ある町へ。



長岡 千恵子 議員

自動走行の実証実験が進められている。自動運転が全町内に普及して高齢者が自動運転を利用し、何処へでも出かける。安心安全で快適な暮らしができる町になってほしい。



中村 勘太郎 議員

一度しかない人生。年を重ねたのか、いろんなことが心配になってくる。特に社会労働の担い手問題で色々あるが、私たち地方議会議員のなり手不足は大きな課題だ。若手で意欲のある方が、チャレンジできる町になってほしい。



川崎 直文 議員

福井県のブランド米“いちほまれ”は、トップブランド米で販路を拡大。中でも“「いちほまれの里」の永平寺町産いちほまれ”は、全国の消費者に望まれ、親しまれている。



齋藤 則男 議員

子供たちの元気な声、笑い声が、町のあちこちで聞こえ、遊ぶ姿が身近で見られる町、健康で安全安心な夢あふれる町を目指して。



川崎 直文 議員

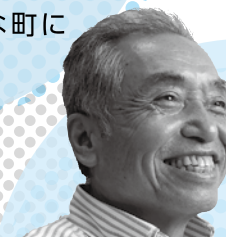
社会活動の省力化が進み、高齢者活躍の場が更に広がっていくだろう。世代間の平準化から、多様性が認められる良い意味で「力」の抜けた社会（永平寺町）になっていると想像する。

永平寺町10年後の将来展望



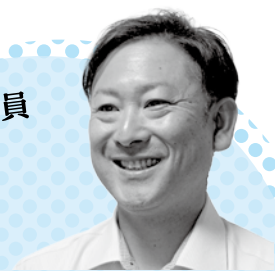
酒井 圭治 議員

心のデトックスを目的として、人々が精神を整えるために訪れ、ZEN文化も国際的に認知される。地域が心を育てるコミュニティとなって、地元経済と文化が融合した持続可能な町になっている。



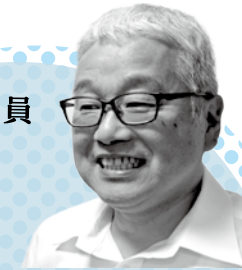
上田 誠 議員

地域の良さのバロメーターは、そこに暮らす子どもの元気で明るい顔、若者～壮年の充実感で満ちた顔、高齢者の穏やかな顔に現れる！10年後にはそんな“まち”を目指して！！



堀内 圭介 議員

地域を担う新世代が台頭し、これまでの古い体質を一新。小規模自治体の武器である機動力と、これまで培った国や民間とのノウハウを最大限に活かし全国の注目を集めている。



清水 憲一 議員

旧3町村時代のよく似た様な公共施設が統廃合されず存続している。至急の仕分けが必要。



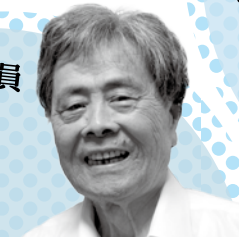
川崎 直文 議員

“合併”、周辺自治体では若者の職場を奪い、地域を疲弊させてきた。今は県都に近い条件を生かし、比較的安価な土地を活用した宅地の供給で、町の生き残り策確立を！



松川 正樹 議員

常時、先を見た長期展望を意識した発言をしているつもりだが、現実の将来は縮小のイメージしか見えない。もう縮小を前提とした発想の転換しかないのか。危機感をもっと極めることに尽きる。



朝井 征一郎 議員

おばあさんが乗る自動運転バスに、車いすのおばあさんと介護の野球少年が乗車し、3人の会話が始まる。

次に乗車したインバウンド観光の人が片言の日本語で行先を訪ねる。

合併30周年に向けて、

永平寺町は
合併20周年を
迎えます！



令和7年 第4回定例会報告

令和7年第4回定例会は、9月2日（火）から9月18日（木）に開催されました。審議された内容は、次のとおりです。

第4回定例会議案		
報告第6号 令和6年度財政健全化判断比率等の報告について 令和6年度健全化判断指標の状況健全性は確保されている	報告	
承認第10号 令和7年度一般会計補正予算の専決処分の承認について 特別職報酬等審議委員報酬14万円 行旅病人身元不明者死亡者扶助費18万円 第53回全国消防救助技術大会への出場に伴う旅費 13万1000円	承認	
承認第11号 令和7年度一般会計補正予算の専決処分の承認について 農作物温水対策（水中ポンプや散水車など）に係る費用の2/3を補助 660万円	可決	
議案第55号 職員の育児休業等に関する条例等の一部を改正する条例の制定について 育児介護休業法において、育児と仕事の両立支援制度を利用できる労働者の勤務時間の要件が設けられていないことから、勤務時間の要件を削除する等	可決	
議案第56号 一般職の職員の旅費支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について 旅費の計算において実費弁償とするなどの「国家公務員等の旅費に関する法律」の改正をもとに、旅費条例の見直し	可決	
議案第57号 町長等の給与及び旅費に関する条例の制定について 旅費条例の一部改正に関連し「特別職の職員の給与及び旅費等に関する条例」の見直しにより、三役と議員を分けた条例とし、三役のみの新規条例を制定	可決	
議案第58号 町税条例の一部を改正する条例の制定について 地方税法及び地方税法等の一部改正に伴い、町税条例の一部を改正	可決	
議案第59号 町有償旅客自動車運送事業の実施及び運営に関する条例する条例の一部を改正する条例の制定について 令和7年10月1日から御陵地区、上志比地区でのデマンド型乗合タクシーを実施するにあたり、当該運賃を定める	可決	
議案第60号 場外離着陸場設置条例の制定について 場外離着陸場について、産業と観光の振興を図るため、令和7年度中の本格運行に向けて条例および施行規則を制定	可決	
議案第61号 令和7年度一般会計補正予算について 1億6415万2000円増額 松岡東幼児園 園庭拡張工事のため整備工事と土地購入746万2000円 農業者物価高騰対策支援補助金778万3000円 舗装箇所の工事請負費2898万1000円等	可決	
議案第62号 令和7年度介護保険特別会計補正予算について 33万5000円増額 令和5年度介護保険事業費の精算による	可決	
議案第63号 令和7年度土地開発事業特別会計補正予算について 848万6000円増額 宅地造成事業における一般会計借入金とのR6年度分割余金を規則に基づき償還し、永平寺口駅P&R跡地宅地造成事業推進のため、宣伝広告および仲介手数料などにかかる事業費	可決	
議案第64号 松岡総合運動公園 ナイター照明改修工事の請負契約締結について 契約金額 5974万9800円 株式会社豊島電工 松岡営業所	可決	
議案第65号 永平寺緑の村ふれあいセンター空調改修工事の請負契約締結について 契約金額 1億1616万円 合同設備工業株式会社 松岡出張所・株式会社スカルトJV	可決	
議案第66号 上志比文化会館ホール天井改修工事（建築）の請負変更契約締結について 変更前の契約金額 7639万5000円 変更後の契約金額 7972万8000円 変更増金額 333万3000円 清川建設株式会社	可決	
諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について 人権擁護委員法第6条第3項に基づき、候補者として法務局に推薦 南部 充洋 氏	適任	

■議案への賛否 ※議長（酒井圭治）は採決に加わりません

※議案等 第4回定例会16件については全員賛成です。

給食調理室見てきました

近年、学校給食の現場ではさまざまな課題が指摘されています。

その原因を明らかにし、**解決策を検討するため**、永平寺町議会では町内5校の給食調理室を視察し、調理員の皆さんとの**意見交換**を行いました。

その結果、次のような課題が挙げられました。

調理員不足

町も随時募集を行い努力を重ねていますが、依然として調理員不足は解消されていません。少人数で運営されている調理室では、急な欠員や長期欠員が発生すると大きな負担がかかるのが現状です。

施設の狭さと老朽化

多くの学校では調理室が狭く、真空冷却器や自動野菜カット機、食器洗浄機など、作業効率や負担軽減に役立つ機器を導入できない状況です。

また、施設の老朽化が進み、壁の剥がれ、水道設備、構造上の問題もあり、現場では対応・配慮に苦労されています。

HACCP（ハサップ）対応による負担増

学校給食施設では、限られた調理スペースの中でHACCP方式（※）による衛生管理が求められるようになってきました。しかし、現在の施設の多くはHACCP対応を前提に設計されていないため、清潔区域と汚染区域を物理的に分けることが難しく、限られたスペースでの移動や作業に工夫を強いられています。

※HACCP方式とは
学校給食におけるHACCP方式とは、食中毒や異物混入などの危害要因を管理するために、原材料の入荷から製品出荷までのすべての工程で、特に重要な工程を管理する衛生管理の手法です。これは令和2年6月から、原則として全ての食品関連事業者（集団給食施設を含む）に義務付けられました。

学校給食施設の視察と懇談会を終えて

現状把握として
学校給食の試食もしました

これらの課題の結果として、調理員には作業動線の重複による負担が増し、作業効率の低下や疲労感の増大も課題となっています。解決に向けて、議会としても行政側への積極的な働きかけを続けてまいります。

9 永平寺町議会だより

8 永平寺町議会だより

問 答 9月定例会 そこで 聞きたい!

一般質問という名の政策提案

12名の議員が町政全般について、一般質問を行いました。
一般質問は議事録に基づき質問議員本人がまとめています。

【一般質問：目次】

中村勲太郎 12P	森山 充 12P	松川 正樹 12P	齋藤 則男 13P
長岡千恵子 13P	楠 圭介 13P	清水 紀人 14P	清水 憲一 14P
川崎 直文 14P	上田 誠 15P	金元 直栄 15P	滝波登喜男 15P

9月定例会 一般質問
YouTube にアップ

一般質問の様子を動画で見ることが出来ます。議会の様子や議員の質問内容など、静かに白熱した様子がうかがえます。皆さんの視聴を歓迎いたします。

福井ケーブルTV

えい坊

チャンネル

9月議会 再放送日程

11月14日(金)～約1週間ほど

毎日放送

毎朝6:00～ 夜24:00～

約2時間番組

令和7年9月定例議会のケーブルテレビでの再放送日程は、11月14日(金) から1週間ほど、毎日朝6時からの2時間と24時からの2時間、同一内容を放送致します。放送内容は会議日程の順番に沿って毎日変わります。議会生中継をご覧になれなかった方、興味のある方は是非ご覧ください。

インタビュー!

interview!!

えい住支援課

長瀬 武英 課長

Q

課の運営方針

A

町の「魅力」を知ってもらうため、情報発信に努めます。空き家、空き地の利活用を促進するため、所有者に寄り添った対応に努めます。移住定住希望者の相談に対して、親切丁寧に接することに努めます。

Q

大野市に居住と聞くと、他市町住民から見た永平寺町の印象

A

大野と同じ九頭竜川を中心とした「自然豊か」なまちである上、県都福井市の中心市街地へのアクセスが良く、広域移動の拠点となる福井北I.C.に近いなど、他の市町と比べて「地の利」があるまちという印象です。また、大野にも宝慶寺という曹洞宗の寺院がありますが、町名のとおり、自然の中に佇む大本山永平寺の印象は特に強いです。

Q

都市計画業務の経験者と聞くと、県における主な業務

A

土木技術者として県の土木部に29年間勤めてきた中で、都市計画課では、ハピライン（当時はJR）福井駅周辺の鉄道高架化事業や市街地再開発事業など、いわゆる都市施設の整備が主な業務でした。その他、ダム建設も含め河川の計画、整備、管理に関する業務にも長く携わってきました。

Q

現段階で考える永住支援の課題

A

永住支援の対象は主に二つあって、一つはもともと住んでいる方、もう一つは町外から移り住む方になります。前者については、主に若者が都会への憧れなどから、この地を離れることが多いのではと考えます。そういった若者にも、「やっぱり地元がいい!!」と思ってもらえるように、地域の魅力を高めること、郷土愛を育むことが課題であると考えます。後者は、移り住んでいただく前提として、町の魅力を知ってもらうための方策が課題であると考えます。

Q

改めて意気込みなど、町民に向けたメッセージ

A

まちづくりは行政が行うハード整備などだけではありません。一人一人がごみを拾うことで「きれいなまち」づくりができ、一人一人が笑うことで「笑顔のまち」づくりができます。『えい住支援課』は永平寺町に永住していただくための支援（応援）を行う課です。⇒『えい、えい、オー』の掛け声のもと業務に励みますので、皆様のご理解、ご協力をいただきながら、共にまちづくりを進めていきたいと思います。

問 高齢者のための福祉施策を **答 福祉機能を強化する取り組み**

町長 旭ヶ丘台地と中心部の位置づけをしっかりと明確にして進めていく。

問 老人問題は、老人だけのことでない。老人は生まれた時から老人でなく、誰もめぐる運命。名ばかりの福祉でなく、今一度発想を転換し、高齢者のための福祉対策を考えていただきたい。高齢者の孤独感・疎外感を解消するための施策はあるのか。世代間の垣根を外し、ともに働き、ともに助け、ともに楽しむ地域社会の建設をするための施策があるのか。高齢者の中には、コミュニティづくりが苦手な人、苦手な人が見受けられる。しかし、人とは接したい、話をしたいという希望はある。このような高齢者がいつでも気軽に利用できる場が作れないか、空き家や空き室を利用したカフェ的な場所はできないか。何時でも好きな時に利用できる場所、一日をゆったり過ごせる場所、井戸端会議ができる場等々。

福祉保健課長 新たな出会いや発見を通じて人生の後半期を過ごしていただきたい。スポーツ協会や公民館との連携を深め、高齢になっても健康で明るく暮らしていけるまちづくりを進めていきたい。

問 幅広い年代の人たちが利用できる場所として「憩いの場」「ふれあいの場」等々の計画を。単なる点としての整備ではなく、将来は周辺一帯を考慮し核となる施設や、地域の振興に役立つ整備を望む。町としてはどのように考え実施設計をするのか。

齋藤 則男議員



問 移住者向け支援策の効果は **答 良好な結果**

町長 国や県の補助も活用している。若い世代を入れて地域コミュニティの循環を求められている。

問 移住者向け支援策の目標と実績、移住者数は。

えい住支援課長 目標は令和2年度から6年度の5年間で700人。実績は875人。内訳はUターン移住者数色支援金（全国型）19件58人。（東京圏）5件10人。Uターン奨学金返還支援事業補助金11件。結婚新生活支援補助金29件43人。29才以下結婚新生活支援金19件32人。スマイル定住応援事業助成金492件864人。子育て世帯住まい支援金31件43人。多世代同居リフォーム支援金22件。

問 来年度以降も継続していくのか。

えい住支援課長 良好な結果なので、基本的には継続。国や県の補助金を利用している。見直しもある。移住者のニーズや住宅情勢を把握分析し、検証して判断したい。

問 移住者支援は政策としては継続事業であるが、支援を受けるのは一過性であり、全町民からは不公平感がある。住み続けている住民へ手厚い支援にしたほうが移住者は増えるのではないか。

町長 国や県の補助も活用している。若い世代を入れて地域コミュニティの循環を求められている。

長岡 千恵子議員



問 前期高齢者の活躍の場は **答 新しい考え方の導入が必要**

町長 70歳を超えても今は働いている方がたくさんいる。少子高齢化の影響で若い方も少ない。地域課題解決への武器のひとつであるIT、AIの最新技術を近隣市町と共に研究を始めようとしている。また、公営化、民営化など様々な角度から課題解決に向けて検討し進めていきたい。

福祉保健課長 高齢者の多くの方が社会で活躍する時代となり、ボランティアや地域づくりを担う人材が不足している。忙しい人ばかりに役割を求めるのではなく、余力のある人が動きながらでも参加できる環境づくり、得意分野を地域活動に結び付けるような新しい考え方の導入が必要。

問 前期高齢者の方は高齢とはいえ活力と知恵を持つ資源であり、その力を引き出す自治体運営こそが地域活性と持続性を両立させる鍵。善意によるボランティアに頼らない持続可能な支援体制と役割分担を役場がしっかりと統率を取っていくべきでは。

楠 圭介議員



問 次期河合町政運営について **答 4期目を目指したい**

町長 地域のコミュニティの在り方であったり、インフラ整備や少子高齢化・物価高騰対策など、いろいろな課題が山積していると感じている。これまで、町民の皆様が育てて頂いた経験や知識、実績でしっかりと町政を前に進めることが私の責任だと思っている。町民の皆様の理解が得られるのであれば、4期目の永平寺町の運営を担わせて頂きたい。

問 複雑なこれからの社会生活環境等を踏まえ、町民一人ひとりが地域の主役となって、感動をめぐる生き生きとしたまちづくりをお願いする。

中村 勘太郎議員



問 合併時からの未解決課題は **答 学校給食センターの整備**

町長 人工知能（AI）や通信技術など新しい技術にしっかりと取り組んでいく。ただそれに振り回されないようしっかりと人間が管理していくことが必要と考えている。デジタルばかりでは人の繋がりがやたらしく生きていることが厳しく寂しい世の中になるので、住民同士がつながりを持って楽しめるような環境をしっかりと整備していきたい。

問 今後20年町政の展望は。

町長 合併に伴い生じた課題について、解決した課題と未解決課題および合併後生じた課題は何か。未解決課題の解決に向けた考え方は。

総合政策課長 合併当時の課題として道路交通基盤の強化があった。永平寺上志比地区間の機能補償道路の供用や道の駅禅の里の建設など着実に進めてきた。

未解決課題 としては町営住宅の計画的な建て替えと学校給食センターの整備がある。前者は新設から長寿命化に方針が変わったことから実現をせず、後者は現在も検討案件として進行中。総合振興計画を基本として、必要な施策を進めながら、適切な町政運営に努めていく。

森山 充議員



問 人口が増え続けている謎の村があった **答 これからもえい住支援・企業誘致・規制緩和をすすめる**

町長 永平寺町が進めているえい住支援・企業誘致・規制緩和が大事。今、吉野地区で計画している。東古市の9地画にも期待できる。

最大のキーは企業誘致。子育て支援も引き続く。

問 人口が増え続けている謎の村、南箕輪村を視察した。奇跡の村と誇ってもいいのに、ユーモラスに言っている。当時の村長さんが村を子育て日本一の村にする決意をし、全国に宣言した。その実現にソフト政策は無尽蔵。50年間で人口を6000人から1万6000人に増やした。住環境も群を抜いていたが、助成金に頼っていない。例えば「ママのための湯ったりタイム」忙しいお母さん方がゆったりとお風呂で休んでもらう。何とも憎いサービス。町長達もぜひ視察して欲しい。積極的に真似してほしい。今からでも人口増加を意識してほしい。

町長 南箕輪村役場 地域づくり推進課（町村の取組）より

松川 正樹議員



◆その他の質問…商工観光課の移転の効果は。ミゼ・オブ・ザ・イヤーの世界大会で賞に輝いた南本郷に幸へ。保育士の空き枠は極端。上志比の公園整備に疑問。城東県民住宅地の住宅造成成功のために、松岡清水区宅地造成はお忘れずか。御像さんが寂しくなっていました。

問 子ども(不登校)の居場所確保を 答 居場所の対応・設置をしている

上田 誠議員



問 報道で不登校生は41万人超。理由にはこれまでの教育や学校生活、人間関係(いじめ含)にしんどさからの漠然とした不安。子ども(不登校生)の居場所が必要。国は不登校特例校を36から300校に。町でも対応が必要。

教育長 コロナ禍後増加傾向だったが一人ひとりに寄り添い学びの保証、サポートルームや適応指導教室等に対応。

問 対応策に県と連携(広域的)して不登校特例校(学びの多様化学校)を検討しては。

町長 町単独の運営は困難。連携での話にはしっかりと対応する。

戦後80年平和な未来を紡ぐ運動を問 先の戦争でアジア太平洋地域で2000万人超、沖縄で悲惨な地上戦、広島、長崎の原爆、全国の大空襲で310万人超の命が奪われた。現状から平和と命の尊さ平和を堅持し戦争をしないさせない国のため平和を未来に紡ぐ運動が必要。

町長 悲惨な戦争を知り平和を一人一人が意識し考えることが大事。

教育長 授業内外で平和・命・人権の学びを進めている。

問 「はだしのゲン」の本を町立図書館・学校図書に。

生涯学習課長 図書館協議会・学校図書主任に図り対応する。

◆その他の質問…増加する単身高齢者の対応は。

問 訪問介護事業所の閉鎖が本町でも 答 福祉事業の社会福祉法人化を考えたい

金元 直栄議員



問 新聞に介護保険持続危機感97%と、全国自治体調査結果が掲載されたが、本町の回答は。

福祉保健課長 とても危機感がある。

問 特に訪問介護は国の報酬削減で事業所の倒産、廃業が全国で相次いでいる。福祉保健課長 町内の訪問介護事業所は2つになった。どこも人材不足で苦慮している。町も外国人従事者の確保に支援している。

町長 町に許可権限がない。社会福祉法人化については、サポートを考えていく。

義務教育の無償化へもう一歩問 小・中生が楽しみにしている修学旅行への支援も考えてはどうか。

学校教育課長 修学旅行は宿泊もあり、児童生徒はほぼ参加。経済的理由の子や保護者には適切な支援を行う。

荒い天候と米作り問 夏の渇水への早い対応には感謝する。今後もこの渇水が繰り返される可能性がある。地域の水確保の見直しが必要だ。

農林課長 各土地改良区、農家組合長の声を聞き、今後の計画を練りたい。

問 この中山間地で大規模経営や大区画化は可能か。

農林課長 本町はほぼ中山間地で、国や県の言うメガファームはむずかしい。

町長 本町は、小規模農家にも独自の支援を行っている。

問 猛暑・酷暑の対策は 答 タブレットを使って見守りを検討

滝波 登喜男議員



問 35度以上の猛暑日が35日と過去最高だったこの夏、熱中症対策は万全だったか。先進地では全ての高齢者を3段階にリスク評価し、熱中症警戒アラートが出るたびに訪問するなど直接注意喚起している。本町の対策は。

福祉保健課長 気象状況を見ながら民生委員・在宅介護支援センターを通じて注意喚起している。

町長 全部を管理することは難しいが、タブレットを使って見守りや脳トレなどできないか検討中。

物価高騰による住民生活の影響は問 物価高騰による住民生活への影響が心配である。家計に占める食費の割合を示すエンゲル係数が発表された。福井市は27.7%で全国14位、過去最高値だった。数値が高いほど、ゆとりのある生活が送れないと言われている。町民の生活実情をどう把握しているのか。

総合政策課長 生活応援券の状況を見ると8月末で換金率46%。その内、食料品関係が7割を占めている。

結婚支援の充実を問 人口減少に歯止めがかからない。坂井市は結婚応援都市宣言し、相談員の養成講座や相談会を積極的に行っている。もう少し大々的に行ってはどうか。

福祉保健課長 県では、市町の担当者を集め、スクラムを組んで取り組んでいる。永平寺町らしい方法を考えていく。

問 財政健全化と永平寺町の舵取りは 答 町運営と財政運営の考え方

清水 紀人議員



問 財政健全化判断比率の報告が出た。今後、財政力指数を踏まえたの様に推移するか。

財政課長 令和5年度0.37。令和6年度も0.37になる。収入関係、基準財政収入額は、当庁試算で人口減少などを踏まえても、今後10年間ほぼ横ばいと推測している。今後の施設更新や新規投資が想定されるがその財源とするため、合併後から目的基金を約25億円積み増している。さらに財源確保策として、合併特例債を活用した基金約16億の積立でも検討している。

町長 町に住んでいただけの施策、緩やかに人口減少をさせていく計画に基づいて、粛々と事業と施策を進めている。人口減少が進んでいく中で、大型の公共施設の建設というのは、私の中ではない。ただ、施設の効率化など、人手不足による効率化や集約化など、経費をどう抑えていくかはしっかりとやっていく。もう一つの大きな課題、物価高と金利の上昇がある。どのタイミングで投資するかは、見極める必要がある。



◆その他の質問…地域課題解決のため民間の力と町を盛り上げていく。

問 小中学校のプール学習について 答 今夏は工夫して実施した

清水 憲一議員



問 猛暑化におけるプール学習、夏休み期間中のプール開放はどうだったか。

学校教育課長 小学校におけるプール学習は、水温と気温の合計が65度を超える場合には実施しない。比較的涼しい時間帯にプール授業を行うように工夫している。今夏、猛暑により中止したという報告はない。中学校におけるプール授業は行っていない。

生涯学習課長 夏休み期間中のプール開放について、小学校の保護者にアンケート調査を実施し、プール開放を望む声が多かったため、学校側と協議しながら町内の小学校で実施した。6日間で1561人の児童が参加した。

問 本町においてプールの施設の寿命が来ていることから、施設改修費の抑制、先生の働き方改革、年中学習できる点から、外部に委託はできないか。周辺自治体においてはその方向に向かっているが。

学校教育課長 一定のメリットはあると考えるが、課題もあるため、学校、保護者とも相談しながら検討していきたい。

町長 本町においては委託先がなく、コスト面からも今のやり方でいきたい。

教育長 今年度、保護者の方にアンケートを行い、来年度に向けた議論を行いたい。



◆その他の質問…ストレスチェックの内容について。選挙投票所を減少させた結果の検証を。

問 渇水対策の農業生産基盤の強化は 答 パイプライン、農業用排水路の基盤整備に取り組む

川崎 直文議員



問 今夏、渇水の被害が発生。農作物の被害、渇水対策事業の補助申請の状況は。

農林課長 収穫したハナエチゼンで乳白米と胴割れの状況がみられる。

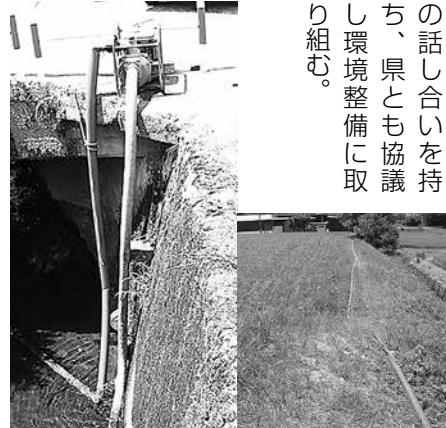
渇水対策に係るポンプ等の購入や散水車リース、燃料費、電気代などの費用の3分の2を支援する。

9月8日現在で申請件数が5件、申請額が35万9千円。申請は年内。土地改良区を除いた概算見込みは150万円。

問 渇水対策は長期的な対策、取り組みが必要。

農林課長 近年の猛暑により農業生産物を取り巻く環境も大きく変わっており、渇水の状況が来年以上も続くものと思われる。

パイプラインの整備や農業用排水路の基盤整備が重要。町内の土地改良区や地元農家組合長との話し合いを持ち、県とも協議し環境整備に取り組む。

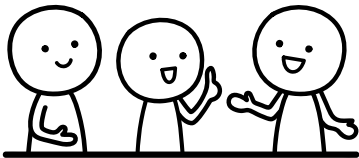


◆その他の質問…農業生産の担い手の確保・育成について。



知事と意見交換会開催

9月26日に円卓会議室において杉本達治福井県知事と我々永平寺町議会議員との意見交換会が開催されました。開催はおよそ2年10ヶ月ぶりです。



はじめに知事からは北陸新幹線の敦賀以西延伸のことや原子力発電廃棄物の処理方法など最近の県政の話題について、丁寧な説明をいただきました。その後に事前に提出していた質問意見について回答をいただき、他にその場でも質疑に応じていただきました。

道路等のインフラ整備については、地元の熱意を高める必要があるとか既存設備を有効活用すべきとの意見をいただきました。また、県政における永平寺町の位置付けと期待するところを尋ねたところ、永平寺は福井の宝であること、大学等があり若者が集まりやすく若い力の活用を期待することでした。

最近の県政の話題については我々の馴染みが薄く、また1時間ほどの滞在時間で十分なやりとりができたとは言い難い状況ですが、前回同様知事と直接対話出来る貴重な機会を得られました。

次回定例会は

12月2日(火)
開催予定

議場で傍聴できます。ぜひお越しください！

役場本庁舎3階までお上がりください。
エレベーターもごさいます。事前申込不要！



議会HP

永平寺町議会だより **みでの** 第80号 <https://www.eiheiji-gikai.jp/>

(発行) 永平寺町議会

(編集) 議会広報特別委員会

議会日程や議事録が閲覧できます。

議会広報特別委員会

委員長 川崎 直文

副委員長 清水 紀人

委員 中村勘太郎

長岡千恵子 森山 充 楠 圭介

発行責任者

議長 酒井 圭治



議会活動レポートHPです。
議会のいろんな活動が見られます。